

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業		責任者	企画調整室 企画担当課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		連絡先	052-654-7841
事務事業名	港湾統計事務		連携課	
目的	対象(誰・何を)	港湾統計	事業期間	平成20年度～継続
	意図(どういう状態にしたいか)	物流関係の諸施策や港湾計画の策定に活用できるようにします。		
概要	NACCSデータの活用を推進することにより、コンテナ情報を収集し、より精度の高い港湾統計データの作成を行います。		根拠法令等	統計法、港湾調査規則
活動内容	基幹統計事務を基本とし、統計法規定の統計として、名古屋港で取り扱われた船舶及びNUTS、NACCSデータの活用をした貨物量を調査し、コンピューター処理の統計データを作成、月・年毎に集計し国に報告します。統計データを基に、港湾統計情報として刊行物及びインターネットにより月・年毎に公表します。港湾関係者及び庁内からの諸施策に活用できる統計資料の作成要請に応えます。		実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			関連シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	26年度	27年度	28年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	109,820	88,424	92,412	96,885	
人件費	千円	61,663	62,433	62,713	62,270	
合計	千円	171,483	150,857	155,125	159,155	

3 CHECK(検証)

指標名	26年度	27年度	28年度	目標	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
月報、年報等作成件数(件) (単年度管理型)	目標	29	29	29	船舶・貨物等の情報を収集したもので、月報、年報等を作成します。	
	実績	29	29	29		
事業進捗状況(28年度)				<small>目標値を上回る</small> <small>目標値をやや下回る</small>		
港湾経営等に活かす統計資料の作成(件) (単年度管理型)	目標	-	-	-	庁内外の諸施策に活用できる統計資料を作成します。	
	実績	263	229	163		
事業進捗状況(28年度)						
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	月報、年報等の作成件数については、目標値どおり、29件作成しました。庁内外の諸施策に活用できる統計資料の作成件数は港湾計画の改訂が終了し、要請が少なかったことにより減少しました。					
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明				
必要性	本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	港湾統計は、基幹統計のひとつであり、それぞれの港の港湾管理者が調査を行っております。名古屋港を利用している企業等の協力を得て調査しております。			
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○				
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○	名古屋港の将来計画の作成や、施策の実現に向けた取組の基礎資料となる基幹統計、業務統計を作成しています。			
	期待どおりの成果が得られているか?	○				
効率性	最小のコストとなっているか?	○	NACCSデータの活用を推進、調査票作成支援ソフト等の活用により効率性を高めています。			

4 ACTION(取組)

課題	29年度以降の取組
統計データは、名古屋港の港湾経営や港湾計画に活用されており、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行っていく必要があります。	NACCSデータの活用等、データ作成に応じたシステムの更改等により運用経費の削減を行うとともに、より精度の高いデータを提供していきます。